

〈報告〉

学位記授与式のための 情報大の花道プロジェクションの制作

坂本牧葉* 向田茂†

Projection Mapping of a Cherry Blossom Pathway for a Graduation Ceremony at HIU

Makiba SAKAMOTO* Shigeru MUKAIDA†

要旨

学位記授与式において、卒業生と保護者に向けた学内展示を検討した。その結果、本学らしい専門性と教職員からのお祝いの気持ちを表現するため、桜の花道をモチーフとしたプロジェクションマッピングの制作に取り組むこととした。設置場所は本学 2F の廊下とし、当日は多くの式典出席者に見てもらうことができた。同様の手法の応用によって、オープンキャンパスなど、今後の学外に向けた PR への可能性が確認できた。

Abstract

This study reviews an on-campus projection-mapping display for graduates and their parents at Hokkaido Information University's annual graduation ceremony. We employed faculty expertise to showcase a projection display with a cherry blossom path motif. The display was set up in the second-floor hallway of one of the buildings on campus, allowing many attendees to view it on the day of the ceremony. This method has potential for future public relations efforts, such as open-campus events.

キーワード

プロジェクションマッピング (Projection mapping) 大学プロモーション (University promotion) イラストレーション (Illustration)

* 北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科講師, Lecturer, Department of Information Media, Faculty of Information Media, HIU

† 北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科教授, Professor, Department of Information Media, Faculty of Information Media, HIU

1. はじめに

入学式や卒業式は、各大学の専門性やポリシーに基づいた「らしさ」が垣間見える場でもあり、季節のニュースとして毎年、報道されている。例えば金沢美術工芸大学では、例年の卒業生のハイクオリティな仮装が知られている（河合桃子・集英社オンライン編集部. 2024）。

一方、2024年に卒業した2020年度入学生たちは、全国的にCovid-19の感染拡大影響下で入学式の人数制限が行われたり、多くの科目でリモート授業が実施されたりするなど、大学生活を存分に謳歌できなかった世代と言える。そのため、各大学の卒業式では、お祝いの気持ちをより強く表明する取り組みが行われた。阪南大学では在学生在が中心となって卒業式の内容を企画し、トークセッションなどが行なわれた（学校法人阪南大学. 2024）。また福岡大学では、卒業生の在学期間がCovid-19の感染拡大影響下だったことを慰労するため、同じ地域の飲料メーカー営業部と連携し、ビールの引き換えクーポンが配布された（大学ジャーナルオンライン編集部. 2024）。

本学においても2024年の学位記授与式では、卒業生・保護者へのお祝いの気持ちを表すため、本学教員の専門性を活かして卒業生の印象に残る展示や学内装飾の検討を行なった。その結果、学内の廊下に「桜の花道」をテーマとしたプロジェクションマッピングを行うこととした。本稿では、その制作報告について述べる。



図1 設置場所

2. 情報大の花道プロジェクションの制作

2-1 企画

卒業生に向けた作品展示や装飾の設置場所を本学校舎棟1号館2Fのインフォメーションプラザ奥の廊下とした。

この廊下は、式典終了後にほとんどの卒業生・保護者が学科別の教室に移動する際に利用し、多くの人の目に触れることから設置会場として選んだ。学内でもこの廊下はとくに長く、窓からも離れていて暗いため、展示や装飾によって明るい印象にしたいという動機も実施に至った理由である。図1に設置場所の写真を示す。

つぎに制作方針を検討し、下記の3点に整理した。

- (1) 本学らしい技術を使用していること
- (2) 学位記授与式に際し、卒業生と保護者へのお祝い気持ちを感じられる内容であること
- (3) 多くの教職員が制作に関われる要素があること

これらを検討した結果、(1)について情報メディア学科の教員の経験豊富な手法を用いることとした。制作に携わる教職員は、これまでに学内外におけるプロジ

エクシオンマッピングの制作と展示や、小児科病棟の廊下への壁画制作の実績から、廊下への手描きイラストの投影を実施することとした（安田・向田ほか、2017、杉澤・斎藤ほか、2021、坂本・小川ほか、2020）。

(2) については、学位記授与式とお祝いの気持ちを表すモチーフとして「桜の花道」を用いることとした。これは、廊下という空間の形状や用途にも合致すると考えた。また、学位記授与式にふさわしい明るさや華やかさも表現できると考えられた。(3) の教職員の参加には、プロジェクトマッピングの映像に使用するヴィジュアル制作に参加型の要素を取り入れることとした。

2-2 むりえ作品の募集

前節で述べた通り、学位記授与へのお祝いのメッセージ性があり、参加型の要素を取り入れたプロジェクトマッピングを制作することとした。検討の結果、桜の花道のむりえを本学教職員に塗ってもらい、それらを壁面に投影させて桜の花道のようなプロジェクトマッピングを制作することとした。

そこでむりえを制作し、教職員に制作を依頼した。むりえは4画面から構成され、6本の桜が描かれている（図2）。他にも本学のキャンパスと、本学の周辺で見られるキツネ、エゾリス、フクロウなどの動物も配置した。制作者の大きな負担とならないよう、用紙のサイズはA4（縦210×横297mm）とした。

むりえ制作の協力者には本来の桜に忠実な色でなくても良く、自由に楽しく塗ってもらうこと、塗るだけでなく何か描き足しても良いことを伝えて依頼した。

むりえの用紙と画材は、本学教職員交流スペース「ワイガヤ」に設置した。「ワイ

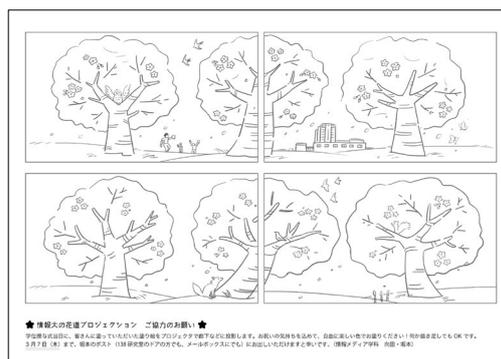


図2 むりえ用紙

ガヤ」での作品募集のほか、総務課担当者から個別の職員に依頼するなどの協力を得た。2024年2月21日(水)～3月7日(木)の15日間の募集期間を経て、29枚の作品が寄せられた。むりえは、教職員本人が塗った場合もあった一方、自宅で家族と制作したり家族や友人と制作されたりしたケースもあった。

2-3 映像の制作

提供されたむりえをスキャンし、明るさなどを調整した後、Keynoteを使用して映像を制作した。29枚のむりえと塗る前の線画、30場面が5秒ずつスライドショーで再生される映像とし、2分30秒の動画ファイル（MP4）として書き出した。

2-4 プロジェクトマッピング設置

プロジェクトマッピングには、超短焦点プロジェクター「リコー PJWX4153」4台とノートPC4台（Windows）を使用した。機材は、卒業生や保護者の歩行の妨げにならないよう、できるだけ壁に近づける必要があったことから、超短焦点プロジェクターを用いた。超短焦点プロジェクターは、



図 3 MadMapper を用いた調整の様子

壁から約 60cm 離れた位置に設置した。

幅、約 17m の壁面に対し、プロジェクター1台あたり高さ 1.7、幅 3m の映像を 4 つ繋ぎ合わせ高さ 1.7m、幅 12m の面積にプロジェクションマッピングを行った。

設置テストの際、建物の歪みやプロジェクターの微細な位置の違いによって、映像の継ぎ目を手で合わせるのが困難であった。そこで、Garage Cube 社の MadMapper (Garage Cube 社. 2017) を使用し、4 つ映像の左右を揃えて繋ぎ合わせた(図 3)。MadMapper はプロジェクションマッピング専用のソフトウェアである。今

回は、投影対象の形状に合わせて映像の変形および投影箇所を設定するマッピング機能を用いて調整した。

2-5 その他の装飾について

プロジェクションマッピングの下の壁面には空気が生じるため、風船を約 500 個、用意し前日に設置した。地震などの万が一の災害を想定し、歩行の妨げにならないよう、テープを用いて目立たないように固定した。

3. 展示

2024年3月15日(金)の北海道情報大学の学位記授与式当日に9:00~14:00頃まで展示した。制作したプロジェクションマッピングは、講堂での式典の前後に学部や学科を問わず、多くの卒業生と保護者の目に触れた。プロジェクションマッピングや、装飾の前で記念撮影する卒業生や保護者の姿も見られた。図4にプロジェクションマッピング展示の様子を示す。



図 4 展示の様子

4. まとめと考察

2024年の学位記授与式では、桜の花道をモチーフとしたプロジェクションマッピングを制作した。本学校舎棟1号館2Fのインフォメーションプラザ奥の廊下を会場とした。卒業生に教職員のお祝いの気持ちを示すとともに、本学らしさをアピールすることができた。今回の制作を通して、廊下を会場としたプロジェクションマッピングの手順や機材が確認できたため、今後はぬりえのテーマを変更することによって、入学式やオープンキャンパスなど他の催しにも活用できる手応えが得られた。

一方で、協力者からはぬりえが細かく、やや塗りづらかったとのコメントが得られたり、装飾に用いた風船を膨らませるのに多くの人的コストがかかったりしたことなどの反省点も得られた。作品のクオリティと協力者の参加のしやすさのバランスを考慮し、今後の取り組みでは改善したいと考えている。

謝辞

ぬりえの制作や装飾にご協力くださった皆さま、機材準備やプロジェクションマッピングの設置にご協力いただいた皆さまに、ここに記して感謝の意を表します。

参考文献

- 大学ジャーナルオンライン編集部
(2024)「卒業生にビールプレゼン
ト、福岡大学がコロナ禍の苦労を慰
労」<https://univ-journal.jp/242894/> (2024
年5月17日アクセス)。
学校法人阪南大学 (2024)
「コロナ禍を乗り越えた学生たちに贈
る特別な卒業式を開催、阪南大学」
<https://kyodonewsprwire.jp/release/202403>

057517 (2024年5月17日アクセス)。

- Garage Cube 社 (2017) MadMapper,
<https://www.garagecube.com/madmapper/>
(2024年5月17日アクセス)。
河合桃子・集英社オンライン編集部
(2024)「〈金沢・仮装卒業式〉「全長
3メートルの縦笛」「設計エラー画
面」「Hondaのエンジン」...それぞれの
想いを込めた卒業制作に身を包んで
臨んだカナビ卒業式に溢れた笑顔」
[https://www.excite.co.jp/news/art
icle/shueishaonline_200040/](https://www.excite.co.jp/news/article/shueishaonline_200040/)
(2024年5月17日アクセス)。

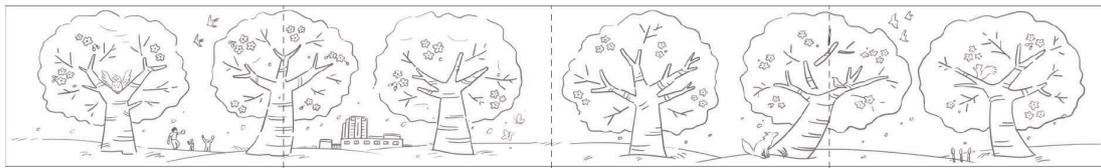
- 坂本牧葉・小川直茂ほか (2020)
「課題解決型学習の教育効果に関する
分析・考察ーホスピタルアートを事例
としてー」基礎造形028 日本基礎造形
学会論文集2020, pp.31-38。

- 杉澤愛美・斎藤一ほか (2021)「小児がん
患者に配慮したVR機器を使わない観
光疑似体験コンテンツの試作」北海道
情報大学紀要, 第33巻, 第1号, pp.31-
38。

- 安田光孝・向田茂ほか (2017)「プログラ
ミングを用いたプロジェクションマッ
ピングワークショップの開催 - 江別第
一小学校との連携による小学生のICT
教育への取り組み -」学校運営, 2017
年11月号, No.676, pp.14-17。

付録

今回の制作にあたり、協力者の皆様に
提供いただいたぬりえを示します。誠に
ありがとうございました。



プロジェクト1の映像

プロジェクト2の映像

プロジェクト3の映像

プロジェクト4の映像

